日本語初級レベルのグループオンライン授業での教室活動に関する研究
—担当教師へのインタビューを中心に—

A study on classroom activity in a group on-line class for Japanese language course at a beginner level
-Focusing mainly on interviews with the teachers in charge -

藤本　かおる
武蔵野大学グローバル学部
Faculty of Global Studies, Musashimo University
Email: k_fujimo@musashino-u.ac.jp

あらまし：ビデオ会議を含む対面コミュニケーションに関連するプロセスについては，非言語コミュニケーション，感情，認知などが関係しているとされるが，現在のオンライン授業はそのプロセスを理解し生かせているのだろうか．実際にグループでのオンライン日本語授業を担当している教師へインタビューし，現状のオンライン授業での教師活動について考察する．
キーワード：web 会議システム，オンライン授業，日本語教育，遠隔教育

1.　はじめに

本稿では，対面コミュニケーションができるウェブコミュニケーションシステムを使い，同じ時間にインターネットでアクセスし顔を合わせて行う授業をオンライン授業とする．オンライン授業は，教師と学習者が１対１で行うプライベート授業，２−４人の学習者が専用システムを使い行うグループ授業があり，グループ授業は，２−４人程度の少人数から，大教室に集まった学習者に向けて講義を行うものもある．

筆者は，様々なレベルの学習者を対象にした日本語オンライン授業の経験があるが，その中で，特に初級レベルの学習者のグループ授業において，他のレベルを教える際には感じない「やりにくさ」を感じた．また，同様の悩みを他の日本語教師からも聞いたことがあるが，初級レベルの学習者とのオンラインプライベート授業ではこのような「やりにくさ」はあまり感じなかった．しかし，ミネルバ大学や，NTT ドコモが離島の学校と協力し行っている授業などからみると，ディスカッションのような交流型授業では通常の対面授業とほとんど変わらない授業が行えるように思われる．

現在，日本語教育においては，教師一人に対して複数の学習者が学ぶ形式のオンライン対面授業は，盛んに行われているわけではないが，介護関係の技能実習生の増加などにより，ニーズは増えると予想される．そこで本研究では，初級レベルのオンライン授業に関して研究する前段階として，前述したような「やりにくさ」が実際にあるのか，あるとした場合それはどのようなもので原因は何なのかを探ることを目的として，授業を担当した教師へインタビューを行い，SCAT（Steps for Coding and Theorization）でインタビュー結果を分析する．

2.　Video-mediated Communication（VMC）について

コンピュータを介在したコミュニケーション CMC＝Computer-Mediated Communication には，共時的コミュニケーション(Asynchronous CMC:ACMC)と共時的コミュニケーション(Synchronous CMS:SCMC)があるが，Nguyen の研究(2008) [(1)] では，CMC は同期的でも非同期的でも，学習者の外国語開発を改善する潜在的な利点を持っていると結論づけられている．SCMS の中でも特にオンライン会議システムよるコミュニケーションは，Video-mediated Communication（ビデオを通したコミュニケーション，この場合のビデオは録画したものではなく，双方が同時にアクセスしているものを指す．以下 VMC)と言われ，チャットなどのテキストによる SCMC とはまた違う特徴がある．

VMC の特徴としては，通信の遅延や視点の不一致など解決されていない技術的な問題が複数あり，VMC は Face to Face(以下 FTF)に比べ微妙な感情の手がかりを見失いやすい．また，VMC は動きや位置を制限するため，心理的距離を測る選択肢が少なく，文字や聴覚でのコミュニケーションよりも親密性は低くなる．そして，それらのことがコミュニケーションに影響する．例えば，同調や関与度が FTF より上手く働かない，感情の伝わり方なども FTF とは異なる点が見られる（Kappas 他 2011：Chapter 5 Parkinson and Lea） [(2)]．

そして，現在のテレビ会議システムや web 会議システムには技術やシステムの制限があり，教師と学習者の視線が一致しないためお互いにどこを見ているかわからず，ノンバーバルコミュニケーションが伝わりにくいことが明らかになっている [(3)] [(4)]．

3.　担当教員へのインタビュー

前述した問題は，他の教師の授業でもあり得るのかを明らかにするために，日本語初級レベルのオンライン授業を担当したことのある教師２名と，中上級のレベルを担当している教師１名に非構造のインタビューを行った．

現在，プライベートでの初級オンラインレッスンを担当している日本語教師は多いが，グループ授業を体験している者は，さほど多くないと思われる．今回話を聞いた３名のうちＡ氏は，日本の私大の非常勤講師として，アジア各国とのコンソーシアムでのプロジェクトの初級グループオンライン授業を５年に渡り担当した．また，Ｂ氏はプライベートでのオンラインレッスンのベテランであり，日本語教師向けにオンラインプライベートレッスンをするための講座の講師なども担当しているが，グループでのレッスンは初中級に対するレッスン１コースのみである．Ｃ氏は，教員と同じ部屋に学習者がおり，同様に多地点からオンラインで授業に参加する学習者もいるいわゆるハイブリット授業で，中上級のレベルが混在するクラスを担当している．

まず，初級レベルのクラスを担当したＡ氏Ｂ氏ともが，オンライン授業には制約もしくは限界を感じたと話した．大きな原因は，やはり回線やコンピュータの性能の問題で，インターネット技術が進んでいるとはいえタイムラグが起こる,学習者側の表情がよく見えないなど技術的な問題である．そして，２名ともが教室で行う対面授業とオンライン授業を比べて，できないことが多いと感じていることがわかった．実際，Ｂ氏はオンラインでもプライベートはほとんど制約を感じないと話した．

またＡ氏は，オンライン授業にはシステムエンジニアのサポートを受けられるなど恵まれた環境であったそうだが，それでも対面でできる様々な活動がオンライン授業ではできないという制約を心理的に受け入れ，ある意味割り切って授業に臨めるようになったのは，担当開始から４年ほど経ってからだったと語った．

Ｃ氏は，中上級の学習者が混在するクラスを担当しているが，授業の中では主にファシリテーションに徹しており，技術的な問題よりも心理的なことについてのコメントが多かった．

4.　終わりに

３名へのインタビューから，現在の日本語初級レベルのオンライン授業は通常の対面授業をオンラインに焼き直している場合が多く，Kappas 他（2011）のいうような VMC のプロセスを理解した上で授業に生かせておらず，そのため教師がやりにくさを感じることがあるのではないかと考えた．実際に，藤本(2008,2011)（5）では，対面授業とオンライン授業の授業活動について対比し分析したところ，学習者の間違いに対する教師の訂正方法や，学習者に対する呼びかけ，また，学習者の発話などに FTF とオンライン授業で違いが見られた．これらは，技術的問題を回避するための行動とみられるが，このような対面授業とオンライン授業の活動の違い（この場合はできないことも含む）をまず最初に明らかすることで，オンライン授業の特徴を考えることができるのではないだろうか．

以上から，これからニーズが高まる可能性のあるグループでの現状のクラス活動を授業観察法などの手法を使い分析し，対面授業との差を明らかにして，オンライン特有のグループ授業に示唆を得ることを今後の研究の課題とする．

参考文献

(1)　Nguyen, V. L. “Computer mediated communication and foreign language education” Pedagogical features. International Journal of Instructional Technology & Distance Learning, 5 (12), 23-44. (2008).

(2)　Arvid Kappas, Nicole C. Kraemer (編集)“Face-to-Face Communication over the Internet: Emotions in a Web of Culture, Language, and Technology (Studies in Emotion and Social Interaction)”2011, Cambridge University Press

(3)　村田梨奈・永岡慶三・米谷 雄介・ 谷田貝雅典「裸眼 3D 視線一致型・従来型テレビ会議システムおよび対面環境における目の疲労度の比較」,電子情報通信学会技術研究報告 = IEICE technical report : 信学技報 116(517), 201-206, 電子情報通信学会(2017)

(4)　山本 理沙・永岡 慶三・米谷 雄介・谷田貝雅典「裸眼 3D 視線一致型テレビ会議システムにおける遠隔実演販売の実用性について」,電子情報通信学会技術研究報告 = IEICE technical report : 信学技報 116(517), 195-200, 電子情報通信学会（2017）

(5)　藤本かおる「遠隔教育における初級日本語教育での web 会議システムの利用とその考察-インドとの遠隔対面授業と日本国内の対面授業の比較を中心に一」,日本 e-Learning 学会会報誌 Vol.11,日本 e-Learning 学会,12-17（2011）